

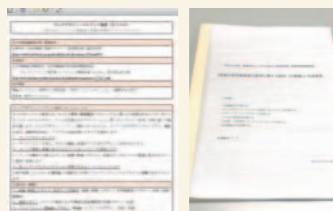


職業分野別の職務遂行基準リスト (職種別必要技能項目) の作成

本学学生の就業先分野において、一般的にその職種に就き職務を遂行するために必要な技能や知識等について、ジョブカード制度のモデル評価シートや職能団体・同業種団体等が示すモデルカリキュラム等から、職種別に習得すべき技能・技術・知識の詳細を把握し、それを職種ごとの基準リストとして作成した。

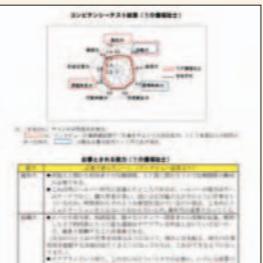
本学での学びの専門性を活かした 職種概要等に関する資料作成

ジョブカード制度のモデル評価シート等を参考に、本学で養成する人材像に関連する複数の職種について、職種の概要、関係資格、本学の対象授業、就く際に求められる能力、就いた後に研鑽すべき能力などを分かりやすくまとめた資料を作成した。



職種別にみる地域人材モデルの策定

本学学生の就業先分野を中心に、地域で活躍する職業人の能力的特性・知識や技術(リテラシー)と経験から身につけた行動特性(コンピテンシー)について、企業等で活躍する本学卒業生や若手社会人に対する調査から分析し、組織から評価され若くして活躍する職業人の、職種ごとのリテラシーとコンピテンシーの特性を抽出して、職種別にみる地域人材モデルを作成した。



【北翔大学産業界ニーズ事業調整委員会 構成員】

■平成 24 年度

キャリア支援センター長
生涯スポーツ学部 教授
菊地 はるひ
キャリア支援センター 課長
長堀 一之
キャリア支援委員
人間福祉学部 教授
佐藤 克之
キャリア支援委員
生涯学習システム学部 教授
高田 茂
キャリア支援委員
生涯スポーツ学部 教授
北村 優明
就業力養成科目担当代表
生涯学習システム学部 教授
佐々木 邦子

■平成 25 年度

企画部 部長
キャリア支援センター長
人間福祉学部 教授
田村 優
企画部教育研究支援課 課長
佐藤 仁
キャリア支援センター 課長
長堀 一之
キャリア支援委員
人間福祉学部 講師
橋本 菊次郎
事業調整委員会 委員長
生涯学習システム学部 教授
小室 晴陽
産業界ニーズ事業 事務担当
永田 雅美
キャリア支援委員
生涯スポーツ学部 教授
上田 知行
就業力養成科目担当代表
生涯学習システム学部 教授
佐々木 邦子

■平成 26 年度

企画部 部長
キャリア支援センター長
生涯スポーツ学部 教授
佐藤 至英
企画部教育研究支援課 課長
佐藤 仁
企画部教育研究支援課 課員
千広 敦子
キャリア支援委員
人間福祉学部 講師
橋本 菊次郎
事業調整委員会 委員長
生涯学習システム学部 教授
小室 晴陽
キャリア支援委員
生涯学習システム学部 教授
高田 茂
キャリア支援委員
生涯スポーツ学部 准教授
上田 知行
就業力養成科目担当代表
生涯学習システム学部 教授
佐々木 邦子

総務部 部長
キャリア支援センター長
生涯スポーツ学部 教授
藤林 俊彦
総務部総務課 課長代理
長堀 一之
総務部総務課 課員
千広 敦子
事業調整委員会 委員長
教育文化学部 教授
小室 晴陽
産業界ニーズ事業 事務担当
永田 雅美
キャリア支援委員
教育文化学部 准教授
飯田 昭人
就業力養成科目担当代表
教育文化学部 教授
永田 雅美
キャリア支援委員
教育文化学部 教授
小室 晴陽
産業界ニーズ事業 事務担当
永田 雅美
就業力養成科目担当代表
生涯学習システム学部 教授
佐々木 邦子

平成27年3月

平成 24~26 年度 3 年間の取組概要

産業界ニーズ事業

- 産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成 -

本学は文部科学省の平成24年度選定「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に北海道、東北ブロックの一員として17校と連携し「産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」を共通テーマに、産業界等の大学に対するニーズを踏まえた教育改善の取組を行ってきた。特に本学では、キャリア系科目的授業内容の充実や教授力の向上、卒業生や地域企業へのヒアリング調査等を通じた評価分析等に取組んだ。また、平成26年度から新たに「インターンシップ等の取組拡大」をテーマとした事業の追加採択も受けた。このパンフレットでは平成24~26年度の3年間の取組概要を6つのカテゴリーに分けて紹介する。



平成24年～26年度 北翔大学「産業界ニーズ事業」の取組概要

本学では、北海道・東北ブロック共通テーマの一つである『産業構造・地域課題を踏まえた教育内容の評価と改善』を中心に据え、ひとつには本学カリキュラムにおける就業力養成科目群のさらなる充実と具体的な展開のための諸準備を学内関係チームで取り組んできた。

本学の就業力養成科目的カリキュラムは、平成25年度までは全学共通の科目が、2科目4単位であったが、平成26年度以降の入学生からは教育課程を大幅に変更し、全学共通科目の中に10科目計13単位を配置し、うち7科目9単位を必修として位置付けて全学的に充実を図ることとなった(右表)。

それをうけ本事業では、これらの就業力養成科目が実質的に高い教育効果が得られるよう、科目の具体的な展開に向けた諸準備に力を置き、教材の作成、教員向け研修会の開催等を行った。

また、実務家による講演会やワークショップの開催、他大学との情報交換、企業及び卒業生へのアンケートやヒアリング調査等を行った。

平成26年度以降の北翔大学教育課程における就業力養成科目群

科目区分	授業科目的名称	配当年次	単位数	
			必修	選択
就業力養成科目	キャリアデザインⅠ	1前	1	
	キャリアデザインⅡ	1後	2	
	キャリアデザインⅢ	2前	2	
	キャリア演習Ⅰ	3前	1	
	キャリア演習Ⅱ	3後	1	
	キャリア演習Ⅲ	4前		1
	キャリア演習Ⅳ	4後		1
	就業力特別講義Ⅰ	2後	1	
	就業力特別講義Ⅱ	3前	1	
	インターンシップ	2・3後		2
小計(10科目)		—	9	4

「就業力養成科目」の教授能力向上や実施方法に関する取り組み



整える

企業人アドバイザーによる就業力養成科目に関する検討会

科目群全体構成や、各科目でのグループワークの進め方、クラス分け、ファシリテーターに求められる要件・心構え、卒業生インタビューDVD教材の使い方等の検討会に、科目担当者が参加しアドバイスをうけた。

平成25年度

- 平成25年8月29日(木)
13:00～18:00 17名参加
- 平成25年11月4日(月)
10:40～17:10 24名参加
- 平成25年12月20日(金)
10:40～12:20 5名参加
- 平成26年1月24日(金)
16:30～18:00 8名参加
- 平成26年2月26日(水)
13:10～16:20 8名参加
- 平成26年3月5日(水)
14:50～16:20 8名参加



平成26年度

- 平成26年6月18日(水)
10:00～16:20 6名参加
- 平成26年8月20日(水)
13:00～17:00 13名参加
- 平成27年2月2日(月)
10:40～16:00 17名参加

熟練外部講師による「キャリアデザインⅡ」の開講に向けた模擬授業

「キャリアデザインⅡ」の「教員がキャリアを語る」、「先輩に学ぶ」の回の模擬授業を実施した。学生が教員や先輩の話を聞き、共感したことや相違点をグループワークで話し合い、多角的視点で物事を捉える大切さを理解する授業の流れに関して、科目担当者が参加し意見交換を行った。

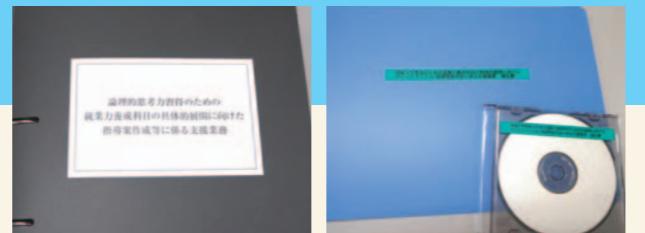
平成25年度

- 平成25年12月20日(金) 13:10～16:00 11名参加
- 平成26年1月24日(金) 14:50～16:20 8名参加
- 平成26年3月5日(水) 13:10～14:40 8名参加



就業力養成科目的具体的な展開に向けた指導案の作成

「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」、「就業力特別講義Ⅱ」の具体的な授業展開に向けたシラバス及び指導案の作成を行った。グループワークを重点に置いた授業展開方法や、論理的思考を習得するためのモチベーション向上につながる授業展開方法等の指導案を作成した。



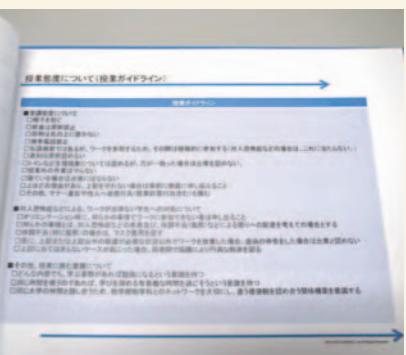
学生が4年間を通じて使用する「キャリアファイル」の制作

学生が4年間の就業力養成科目での学びを蓄積していく「キャリアファイル」を独自に開発。1年次から4年次まで継続して就業力をしっかりと身につけられるよう、授業で配布されるレポートを蓄積しファイルを振返ることで、大学の授業だけで終わるのではなく、より効果的なキャリアデザインや実践力の向上につなげていきたいと考えている。大学4年間で蓄えられた学びが自信となり就職後の力となることを目的として制作した。



就業力養成科目の“授業ガイドライン”的作成

就業力養成科目全体の共通ルールを記したガイドラインの作成を行った。学生が守るべき事項が記載されたガイドラインと、担当の教職員の共通認識を記したガイドラインの2種類を作成した。

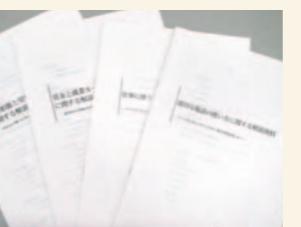


創る

「就業力養成科目」に関する教材の開発

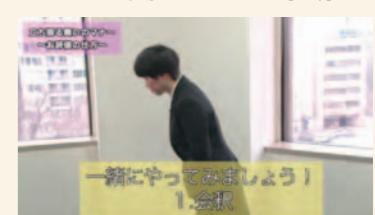
雇われる側の法的知識や、ビジネス文書・敬語に関する使い方に関する教材

就業力養成科目の1年生の後期の授業科目「キャリアデザインⅡ」の授業での使用教材として、雇用形態や労働関係法等に関する解説資料、賃金や就業ルールに関する解説資料、適切な敬語の使い方に関する解説資料、仕事で使う文書に関する解説資料を作成した。



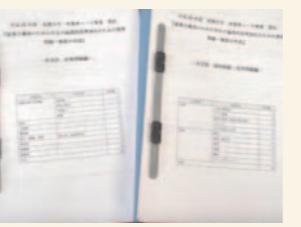
インターンシップマナー講座 DVD 教材

インターンシップに参加する学生の事前学習教材としてビジネスマナーに関するDVDを作成した。DVDの内容は、学生がインターンシップに参加するにあたり身に付けておかなければならぬビジネスマナーを8つの項目から解説している。要点についてはクイズ形式で視聴者に理解を促し、正しいビジネスマナーについて解りやすく解説を施している。

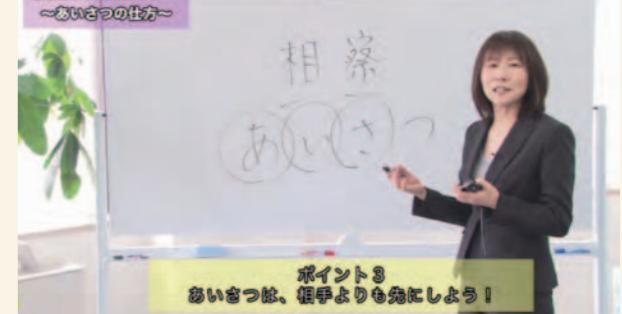


数的処理能力や論理的思考能力、图形把握力強化のための教材

「就業力特別講義Ⅱ」で使用する教材として、学生の数的処理能力や論理的思考能力、图形把握力強化のための演習問題と解説資料を作成した。



社会人としてのマナー～あいさつの仕方～



ポイント3
あいさつは、相手よりも先にしよう！

学生が自身のキャリア形成の状況を振り返り評価するためのワークシート教材

履歴書や自己PR書を書けずに悩んでいる学生のために、履歴書などを書く前段階として、順を追って自分を知るために「3日で完成！振り返りワークシート」を作成した。

北翔大学キャリア支援センターが主となり、シナリオ・センターが監修し作成。



卒業生インタビュー DVD 教材

平成 24 年度

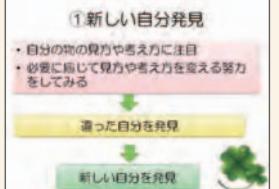
在学生のためのキャリア教育教材の作成と在学生への利用のため、本学卒業生 22 名に大学在学中の就職活動や学んでおけばよかったことや仕事をしてみて心がけていること、在学中の後輩たちへのエール等を小中高教諭、社会福祉士、介護福祉士、健康運動指導士の 4 分野の卒業生にインタビューし、DVD を作成した。



その他の教材について



ビジネス文書・敬語等の使い方
に関するスライド教材(キャリ
アデザインⅡ)



キャリア形成事例説明資料

(キャリアデザインⅡ)

平成 25 年度

就業力養成科目の 1 年生の後期の授業科目「キャリアデザインⅡ」の教材として、就業先での評価が高い最近の本学卒業生 10 名、福祉・スポーツ・教育・芸術・心理の 5 分野を卒業した学生 2 名ずつに対して、インタビューを行い、それをまとめ DVD にした。職業人として心がけていることや仕事で苦労していること、仕事の魅力ややりがい、大学時代にしておくべきこと等をインタビューした。学生が職業人としての身近な目標をイメージしやすく、個々の具体的な学習目標・モチベーションアップにつなげるものとして活用している。

【卒業生インタビュー～シゴトのリアル、伝えます。～ disc1】

①「学びをまっすぐに生かす」

大学で学んだ学習をそのまま職業にして働く 2 名の卒業生。
Aさん 学習コーチング学科 2009 年卒、苫小牧市内小学校勤務、小学校教諭
Bさん 介護福祉学科 2010 年卒、札幌市内介護老人保健施設勤務、介護福祉士

②「学びをベースに働く」

大学での学びを軸として活かし働いている 2 名の卒業生。
Cさん 芸術メディア学科 2009 年卒、札幌市内 WEB サイト制作会社、WEB デザイナー
Dさん 生活福祉学科 2005 年卒、札幌市内児童デイサービス勤務、デイサービス事業所管理者

【卒業生インタビュー～シゴトのリアル、伝えます。～ disc2】

③「専門性を追求して働く」

大学で学んだことを専門にして働く 2 名の卒業生。
Eさん 福祉心理学科 2010 年卒、札幌市内心理クリニック勤務、臨床心理士
Fさん 生活福祉学科 2008 年卒、札幌市内デイケアセンター勤務、精神保健福祉士 (PSW)

④「他の道から教員に」

大学入学時は別の道を目指していたが教員になった 2 名の卒業生。
Gさん 芸術メディア学科 2008 年卒、紋別市内中学校勤務、中学校教諭 (美術)
Hさん 学習コーチング学科 2012 年卒、札幌市内養護学校勤務、特別支援養護学校教諭

⑤「教員志望から他の道に」

大学入学時は教員を目指していたが学びを進めるうち他の道に変更した 2 名の卒業生。
Iさん 健康プランニング学科 2011 年卒、札幌市内情報雑誌社勤務、営業職
Jさん 健康プランニング学科 2005 年卒、札幌市内クリニック勤務、健康運動指導士



講演会の開催や外部研修会等への参加



実務家による職業人講演会・ワークショップの開催

①平成 25 年 3 月 8 日(金)

10:30~12:00 「企業のホンネから導く学生の自立支援」 教職員 76 名参加
13:00~15:00 「学生のモチベーションはこう上げる」 教職員 35 名参加

社会が求める学生像の現状や教員、職員という立場でのキャリア支援等について学ぶ機会として講演やコーチング、書籍等を通して学生と企業の両方を幅広くサポートしている外部講師を招き午前午後の 2 部構成で講演会・ワークショップを実施した。



②平成 25 年 12 月 20 日(金) 16:30~18:00 教職員 34 名参加

「学生のモチベーションを高める教授法」

相手の心に響くプレゼンテーションの基本を理解し体現する方法は何かを学ぶ機会として、人事コンサルタントとして大学や企業で幅広く活躍する外部講師を招き講演会を実施した。プレゼンテーションの 3 つの要素、プレゼンス(存在自体)・シナリオ(内容や構成)・デリバリー(表現と伝達)をうまく使用し、「相手に伝わる授業」を行うことが重要であるとの内容であった。



実務家による職業人講演会・ワークショップの開催

③平成 26 年 12 月 25 日(木) 13:10~14:40 教職員 49 名参加

「組織活性化！チーム力 UP マネジメント～社会のニーズに対応できる学生を育てるために～」

教育力を高めるための「組織活性化」について学ぶ機会として、自治体・企業向けのコーチングや研修にも多数取り組んでいる外部講師を招き講演会を実施した。「コミュニケーション力」をアップすることが組織活性化につながるとして、組織構成員の「育ってきた環境」や「価値観の違い」を理解し、同じ目標を持って取り組む必要がある。ひとつの方法として、会議の枠から外れた「オフサイドミーティング」といった気軽に真面目な話をする場を作ることが重要であるとの内容であった。



美術系教員養成カリキュラムの改善に向けた意見交換

平成 25 年 11 月 4 日(月) 10:00~12:00

本学卒業生で現職の中学校美術教員に対してヒアリングを行い、美術系教員養成のためのカリキュラム内容のあり方や他の芸術系科目のあり方について、意見を聴取し本学のカリキュラム改善を行う際の参考とした。



●教職志望者 3 年在学生と面談でのヒアリング内容
中学校の現場で実際に行われている授業内容／美術の授業中の生徒指導／採用試験

●美術担当教員と面談でのヒアリング内容
卒業後の経歴／在学中の講義実習で役に立っているもの／美術科教育法／教職科目全般／教科に関する科目

⑥平成 26 年 6 月 9 日、「テーマ B」インターンシップ等の取組拡大キックオフ会議参加。事業推進責任者である小樽商科大学よりテーマ B の取組の説明があった。文科省からは 28 年度以降は独自で展開をさせる意識を持って取り組んでもらいたいということと、具体的な成果も求められているとのことであった。

取組の背景・目的・取組の推進体制・取組スケジュール・期待する成果等を説明したのち、他大学の担当者からの質問があり、インターンシップの定義について、コーディネーターの職務について、企業が求めるインターンシップ等を 5 大学で協議を行った。

⑦平成 26 年 6 月 12 日、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマ B】によるインターンシップの取組拡大の情報交換会に参加。文部科学省と独立行政法人日本学生支援機構の担当者から実施計画、実地調査報告、インターンシップ等実務者研修会等について説明と報告があった。その後、各地域の幹事校 11 大学より、15 分ずつ事業概要や補助金終了後の事業の継続性等について報告があった。



⑧平成 26 年 9 月 1 日、北海道・東北ブロック全体会議参加。「青森公立大学におけるインターンシップの取組について」の発表、「各校におけるインターンシップ等の取組事例」発表があった。その後「コミュニケーション力・行動力を育てる」というテーマでグループに分かれ発表・討議を実施した。



⑨平成 26 年 8 月 19 日、【テーマ B】インターンシップ等の取組拡大連携大會議に参加。各大学から今年度のインターンシップについての現状報告と共通プログラム実施に向けての報告があった。



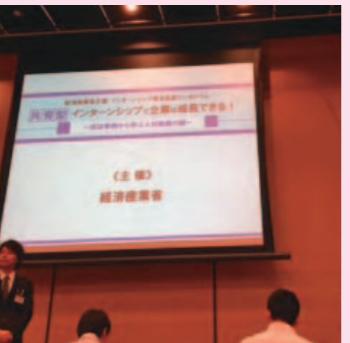
インターンシップの拡大について、人材フォーラムについて共通プログラム実施に向けて意見交換を行った。

⑩平成26年9月9日、インターンシップ等実務者研修会参加。専門人材をどのように育むべきかについて、人材を外部から取組む大学や若手教員の第二専門領域に位置付ける大学や教育評価システムを構築する大学の例が紹介された。また、インターンシップの質の向上セッション、グループディスカッションが行われた。インターンシップに参加し、学ぶことの意味を考えるようになれば、学習意欲の深まりに繋がると考えられ、インターンシップの普及の大切さを改めて感じる研修となった。



⑪平成26年10月23日、南東北地域グループ会議参加。南東北地域グループ大学からの報告があり、それに対しての企業からの質問、意見交換が交わされた。会津大学では、企業見学及びグローバルキャリアワークショップについての報告、桜の聖母短期大学は福祉施設と合同で企画したイベントについての報告、山形大学はキャリアセンター制度について、アライアンスネットワークについての報告があった。

⑫平成26年10月29日、インターンシップ普及促進シンポジウムに参加。経済産業省は産学連携によるインターンシップの普及促進に取り組んでおり、各種の調査結果から、就職を控えた学生の為と思われがちなインターンシップは、企業側も戦略的に取組むことで大きなメリットを享受できることが分かってきた。インターンシップの普及促進を背景にしつつ、インターンシップ活用による人材育成を通じた企業の成長のあり方について、最新の具体事例を交えながら情報提供と意見交換を行うシンポジウムであった。



企業や卒業生へのアンケート・ヒアリング



地域企業が新卒大学生に求める人材像に関する調査

本学卒業生が在籍する企業の採用担当社員等に対するヒアリングを実施し、分析を行った。平成19年～24年度の本学学生の就業先の中から、4分野10社を対象とした。社会福祉系5社／スポーツ系1社／芸術、建築、デザイン系2社／その他一般2社。ヒアリング内容としては、大学教育に期待することとして「キャリア教育・社会基礎力について」、「基礎学力、語学力、コンピュータリテラシーについて」、「専門教育（専門性の深化）について」伺った。

地域企業へのヒアリング調査による本事業の評価

本学が実施した3年間の事業について、平成24年度20社、平成25年度10社、平成26年度10社の企業に対して具体的な取組内容を説明して本事業への評価を聞いた。「卒業生DVD教材」など各種教材の作成に関する取組や、「模擬授業」や「指導案の作成など」教授能力の向上に関する取組について、高く評価する声が多かった。一方、「職業分野別の職務遂行基準モデルの作成」については回答企業の業種によって評価が分かれた。また、大学ホームページでの「本事業の情報発信」のわかりづらさを指摘する声がいくつか聞かれた。



⑬平成26年11月25日、北海道グループ会議参加。NPO法人ETICにより学生向け実践型インターンシップの拡大・普及・教育改善（企業の成長や企業にとって意味のある、大学・地域と連携したインターンシップの仕組み）について、北海道エンブリッジより就職活動には自己分析と企業分析が必要であるとの話を伺った。



⑭平成26年12月19日、インターンシップ等の取組拡大情報交換会参加。文部科学省、経済産業省、日本学生支援機構からの説明後、「インターンシップに係る専門人材」、「大阪府立大学における海外インターンシップ」、「キャリア教育とインターンシップについて」の3つの講演が実施された。また、北海道地域、東北地域、中国・四国地域、福岡・佐賀地域、沖縄地域、滋賀・京都・奈良地域、大阪・兵庫・和歌山地域、首都圏地域、広域多摩地域、関越地域の11地区各大学のグループの取組事例発表があった。学生の就業意欲を高めるために、インターンシップに参加し就業体験をすることはとても重要であると感じた。



⑮平成26年12月9日、久留米大学に講義受講・面談のため訪問した。講義は1年生後期選択科目「クリティカルシンキング」と討論（グローバルとローカル）」を受講。受講学生は、300名。うち1年生が約250名・2年・3年生は50名ほど受講。4年生4名がアルバイトで講義のアシスタントとして参加。毎回講義の前後で講師とアシスタントのミーティングを開催し議論する。DVDの視聴時間が長く寝ていた学生がいたなど、アシスタントの意見は大変参考になり、より良い講義を展開するためにとても重要なおしゃべりが印象的だった。



卒業生へのハガキアンケートによる就業状況調査

平成24年度産業界ニーズ事業において、平成25年3月、北翔大学の卒業生（平成19年度～23年度卒）を対象にアンケートはがきを郵送し、就業状況や転職状況について追跡調査を行い、集計・分析をした。



卒業生への郵送アンケートによる正課教育及び正課外活動等に関する分析

北翔大学の卒業生（平成19年度～25年度卒）への郵送アンケート調査を行った（回収数425件）。調査項目は、回答者の属性（性別／卒業時期／卒業学科／就業状況／職業の種類）、大学教育内容への評価、大学の環境・設備への要望、大学の行う社会人向け講座へのニーズ、大学の行う就職支援へのニーズ、その他自由意見である。



※調査結果について詳しくは最終ページのお問い合わせ先までご連絡ください。

インターンシップ等の取組拡大に関するこ

地域産業が新卒大学生に求める能力に関する企業アンケート調査

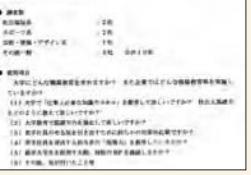
地場企業755社への郵送アンケート調査（回収数385件）の実施結果を基に、地域産業が新卒大学生に求める能力について分析した。アンケートはコミュニケーション能力、主体性、協調性、チャレンジ精神、誠実性、専門性、スキル等の8項目について考察した。

若年者向け職業教育に関する企業・大学間比較分析

大学における職業教育に関する意識等を地域企業へ聴取し比較分析を行った。平成19年～24年度の本学学生の就業先の中から、4分野10社を対象とした。社会福祉系2社／スポーツ系2社／芸術、建築、デザイン系1社／その他一般5社。ヒアリング内容としては、「仕事上必要な知識やスキルの教育・社会人基礎力をどのように教えるか」「基礎学力強化」「若手社員のやる気を引き出すための対策」「育成する担当者の指導力」「採用の際の母校のHP確認」について伺った。



若年者向け職業教育に関する企業・大学間比較分析



インターンシップに関する職員の能力向上のための学習会

①平成27年1月7日(水)10:40～12:10 5名参加

「インターンシップ先企業の特質を解説する力を向上させるための勉強会」

学生や企業などに伝わりやすいプレゼン力を学ぶ機会として、心理・キャリアカウンセラーとして活躍している外部講師を招き学習会を実施した。プレゼンを成功させるには、テーマがぶれないこと、見た目などの印象を残すこと、スピーチの締めくくりが重要であるとの内容であった。

②平成27年1月8日(木)10:40～12:10 5名参加

「インターンシップ先候補企業の分析・評価手法に関する勉強会」

学生が望むもの、相手主体の相手理解をする方法を学ぶ機会として、キャリアカウンセラーとして活躍している外部講師を招き学習会を実施した。相手主体の相手理解を示すためには、学生と長所をほめ、成長を認め、やる気を出しながら相談を進め、現在の雇用状況や進路選択における学生の意識変化に常に敏感になること、学生が「自分で決めた事」と実感させることが重要であるとの内容であった。



インターンシップ先企業への訪問調査

インターンシップの取り組み状況や採用状況などを伺った。インターンシップについては、既に実施している企業、今後前向きに検討している企業、また、業務の特性から受け入れが難しく実施に至っていない企業の3つに分かれた。しかし学生にインターンシップの機会を提供することで業界企業の内容理解につなげたい考えや、学生の就業感を養うことについては、どの企業もおおむね同様の認識を持っている。また、このたびの訪問で今後インターンシップの希望などが生じた場合には、個別に相談に応じていただける企業もあり、関係を強化することが出来た。

●平成27年1月20日～23日
(帯広・釧路地域：金融業、医療、福祉、運輸業等 15社)

●平成27年1月28日
(小樽・登別地域：食品製造業、宿泊業、医療・福祉等 3 社)

●平成27年1月28日～30日
(函館地域：運輸業、医療・福祉、食品製造業等 8 社)

●平成27年2月 4 日～5 日
(旭川・滝川地域：金融業、鉱業、建設業等 8 社)